

1
産学官

産学官金連携イノベーションの創出 先端ラボ開設 1周年記念 オープンラボ 2017 を開催

Vol. 13
November
2017

先端産業国際ラボラトリー（先端ラボ）は、地域産学官金の協働インターフェイスとして2016年4月に設置され、去る7月5日、開設1周年を記念し、オープンラボ 2017 を開催しました。当日は、現在進めている先端ラボの取り組みと成果報告についての情報交換を行うため、施設見学・ポスター発表セッション、開設1周年記念式典、シンポジウムと3部構成で開催され、企業団体（75社）、教職員、学生など約230名が参加しました。

記念式典では先端ラボ所長の綿貫啓一教授より記念講演として、これまでの活動実績報告と今後の計画について説明。先端ラボとの共同研究の事例としては、株式会社朝日ラバーと行色色のパラツキが少なく視認性に優れ、疲労低減特性のあるLEDの開発や、ヘルスケアとメディカルの2つのイノベーション研究ユニットから、介護ロボットや滅菌環境下移動ロボット開発など複数の報告がありました。

また、式典では来賓としてお招きした文部科学省高等教育局の小山竜司国立大学法人支援課長、経済産業省の三浦裕幸関東経済産業局地域経済部長、埼玉県庁の渡辺充産業労働部長（代理：高橋利男先端産業課長）から祝辞が述べられました。山口宏樹学長からの挨拶では「産学官金の連携を進め、スペースの提供により共創を具現化し、インキュベーションを行っていききたい」と先端ラボにかける思いを語りました。



1 先端ラボのインキュベーションスペース見学 2 挨拶する山口学長
3 先端ラボの紹介をする綿貫所長 4 ポスターセッションの様子

先端産業国際ラボラトリーの概要

地域産学官金の協働インターフェイスとして、2016年4月に先端産業国際ラボラトリーを設置しました。共創型ワークショップ・スペースでは、異業種間や産学官セクター間などの壁を越えた人的ネットワークの場を提供します。また、先端産業インキュベーションスペースでは、研究開発・試作・製品化・事業化を一貫して行い、地域産業人材を育成するとともに、新産業創出・標準化事業を通じて広く社会に還元し、地域社会の発展に貢献します。ヘルスケアとメディカルの2つのイノベーション研究ユニットを設け、埼玉県特有の課題である超高齢社会に安心をもたらす「彩の国健康・医療イノベーション・エコシステム」の構築も目指します。

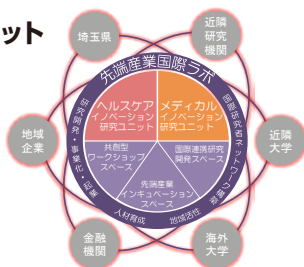
研究ユニット

●ヘルスケア・イノベーション研究ユニット

遠隔医療やヘルスケア支援のためのIoT技術、AI技術、人に優しい機器設計のためのヒューマンインターフェイス技術、ブレイン・マシン・インターフェイス技術等の研究開発による先進ヘルスケア分野の高度化への貢献

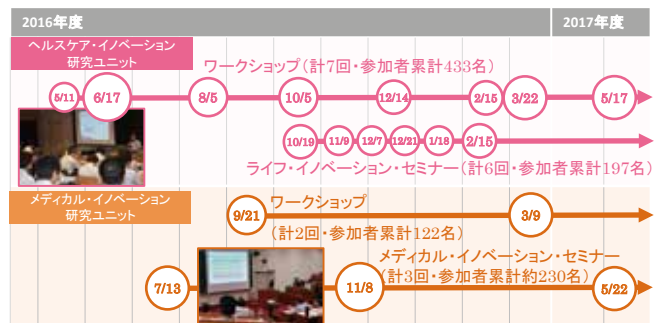
●メディカル・イノベーション研究ユニット

次世代抗体スクリーニング技術、蛍光発光技術、多価化合物によるクラスター化技術等を用いた、感染症やがん他分野における高感度、迅速、簡便な診断薬や検出キットの研究開発によるメディカル・イノベーションへの貢献



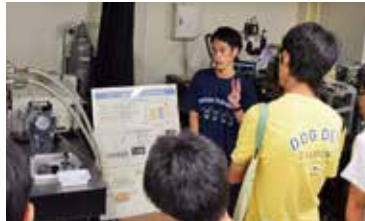
産学官金連携インターフェイス拠点の形成

主な実績



9 オープンキャンパス 2017 を開催

8月7日～9日の3日間、オープンキャンパス2017を開催し、約14,000名の方々にご来場いただきました。当日は各学部・学科説明や模擬授業、施設・宿舎見学のほか、学生スタッフ運営による相談コーナー、大学紹介ムービー放映など、たくさんのプログラムで埼玉大学の魅力を発信しました。参加した高校生からは「講義内容や進路状況、現役の先輩たちの生の声を聴けてとても参考になり、ここで学びたいと



より強く思いました」[キャンパスが緑豊かで広く好感を持ちました。全ての学部がひとつのキャンパスに集まり学習できることに魅力を感じました]といった声が寄せられました。

11 平成 29 年度学位授与式 を挙行了しました

9月22日、本学大会館において、平成29年度埼玉大学学位授与式を挙行了しました。34名の留学生を含む学部生、大学院生65名が学位を授与され、埼玉大学から旅立ちました。山口宏樹学長の式辞では、卒業生・修了生の門出を祝うとともに、「知識社会」に貢献していくための心構えを紹介し、「今日の学位は一つの大きな節目であり、勉強はいつまでも続きます。知識社会における皆さんの、知のプロフェッショナルとしての健闘を心から祈ります」との激励がありました。



13 埼玉大学モニュメント 「地ニノゾミ知ヲマトウ」が鮮やかに!

教育学部 高須賀昌志教授によって2006年に作成されたモニュメントが修復され、より色鮮やかになりました。【モニュメントについて】本学が位置する大久保という場所は、古くは本村遺跡にみられる住居群、村の中心としての神社など、人の営みが集積され、交流し、社会に還元されていくはたらきを生み出してきた「地」です。全体の姿は、埼玉大学の学生が、この「地」から「社会」に飛翔していく様を表しながら、大学の持つ多面性を象徴化したものです。穿たれたかたちは、「知」の象徴として多様な研究や学問に関わる記号をモチーフとして「交流」や「開かれた姿勢」を表現しています。



15 学生チームが「ルーキー賞」を受賞 全日本学生フォーミュラ大会に初出場

9月5日～9日、静岡県の小笠山総合運動公園において第15回全日本学生フォーミュラ大会が開催され、学生サークルFPSUが初出場し、上位入賞はなりませんでした。大会初出場6チームで総合得点が最も高いチームに贈られるルーキー賞(ICVクラス)を受賞しました。同大会は、2003年から公益社団法人自動車技術会の主催(後援:文部科学省ほか)で開催。学生自らフォーミュラカーを企画・設計・製作し、コスト審査や



10 「留学生に勧めたい進学先」に入賞! 日本留学アワードで2年連続

埼玉大学が、昨年に続き、日本留学アワード「日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先」の2017年国公立大学部門(東日本)に入賞しました。「日本留学アワード」は、日本語学校を志す多くの外国人留学生の環境整備に貢献することを目的に、日本語学校教育研究大会実行委員会が2012年に創設。私立大学文科系・私立大学理工系・国公立大学・大学院などの部門ごとに東西地域の上位校が選出されま



す。今年是全国の日本語学校175校から445票が集まり、53校が選出され、本学は国公立大学(東日本)部門において、上位6校のうちの1校に選ばれました。

12 学生考案の県産食材を使ったお弁当販売 エキュート大宮とコラボ

9月23日、本学学生が考案した、県産食材を使ったお弁当の販売がJR大宮駅構内のエキュート大宮で行われました。栄養学を学ぶ教育学部家政教育講座講義の中でお弁当献立のアイデアを出し合いました。狭山茶や川越芋を使ったおこわ弁当と、県産黒豚を使った韓国総菜弁当の2種類が完成し、11月下旬まで販売されます。このコラボの背景は、本学とJR東日本大宮支社との間で締結した「埼玉大学周辺地域の魅力づくりや埼京線沿線の活性化、次世代の地域づくりを担う人材育成などに向けた包括協定」に基づくものであり、グループ会社であるエキュート大宮と「埼玉県の食材を再発見し地産地消の取り組みを深めていく」ことを目的として、お弁当開発を行いました。

はっぴを着てお弁当をPRする学生たち▶



14 「梶田隆章先生ノーベル物理学賞 受賞記念展示コーナー」リニューアル!

2015年11月5日から埼玉大学図書館の展示コーナーで開催していた「梶田隆章先生ノーベル物理学賞受賞記念展示」が、9月27日よりリニューアルオープンいたしました。展示コーナーでは、ノーベル物理学賞受賞までの歩み、研究成果のほか、本学で行われた受賞記念講演会や植樹式、在学生に向けた直筆メッセージなどを展示しております。以前に来場された方も、リニューアルした展示コーナーを是非もう一度ご覧ください。多くの方のご来場をお待ちしております。

